

□海外文献紹介□

長期間の大腸癌粘膜マーカーとしての墨汁の有効性

Effectiveness of india ink as a long-term colonic mucosal marker: Fennerty MB, et al (Am J Gastroenterol 87: 79-81, 1992)

大腸の小さなポリープは、見つめられたときに切り取られてしまうので再度見つけることは必要ないかもしれないが、最近このようなポリープの自然史に対する関心が増し、この研究のためにはポリープの部位の確認が正確になされる必要がある。Hoff らの小さなポリープの発育に関する prospective な研究では、26%のポリープが再確認でなかつ

たとしている。自然に消退したのか、再同定できなかったのかは、粘膜のマーカーがはっきりしていないため不明である。

今回、著者らは S 状結腸から直腸の小さなポリープの自然史を研究するために、長期あるいは永久的な粘膜マーカーとして、墨汁の使用を prospective に研究した。

S 状結腸から直腸にある 3~9 mm のポリープを持つ患者を対象とした。指標となるポリープの横に生食水で 10 倍に希釈し消毒した墨汁を内視鏡下に 0.2~0.5 ml 注射した。各患者は 6 か月ごとに sigmoidoscopy で経過観察された。26 人の患者に 32 か所の点墨が行われ、平均

観察期間は 14 か月であった。

6 か月以上にわたり経過観察された 19 例についてみると、すべての点墨部位は強く染色された状態を保っていた。点墨部からの生検では、墨の粒子は粘膜および粘膜筋板内にあり、炎症性の変化は認められなかった。墨汁の大量の局注は膿瘍や脂肪壊死を引き起こすとの報告があるが、副作用や合併症は認めなかった。

著者らは、墨汁は大腸粘膜病変の安全で効果的な長期にわたるマーカーであると結んでいる。

(愛知県がんセンター消化器内科

中村常哉 抄)